



# 技術士だより

—(株)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 夏季号<第5号> (平成2年8月5日発行)

## ◇巻頭言

### 会員増強に想う

野々下 金 (前支部長・顧問)

まず、昭和63年度の全国大会の大成功を始め、土居支部長を中心とする役員の皆様のご尽力による、昨今の支部の組織的かつ活発な活動に、心から敬意を表し厚くお礼を申し上げます。

また、来る8月下旬には、炎天下に二次試験が実施されます。試験監督員をお引受の皆様のご苦勞に、深く感謝申し上げます。

ところで、最近発行の会員名簿によりますと、二次試験合格者の累計が27,780名であるのに対し、法律で定められた日本技術士会会員は、僅かに3,483名であるとのこととあります。この数字は、物故者を含む合格者8名中、会員は1名であるということを示しております。正確な数字が手元にありませんが、合格者の入会率は年毎に低下しているような印象を受けますが、これで良いのでしょうか？

私の場合もご多分に漏れず、入会は恥ずかしながら合格後7年も経ってから、高田事務局長のお勧めをうけてからでありました。もっとも、センターには登録直後に入会させて戴いておりましたが、入会後に早く入会すれば良かったと思いましたが、会員の皆様と同じでございます。

現在、技術士の活性化と共に、会自体の活性化が言われておりますが、そのためには、もっと会員増強を図る必要があるかと思えます。会のため、会員のため、そして合格者のため、もっと合格者が入会しやすい環境と雰囲気作りと、さらに先輩会員の積極的な入会の勧誘が必要ではないでしょうか？

## ◇ご挨拶

### おおらかに明るく生きよう

支部長・センター会長 土居 貞夫

暑中お伺い申し上げます。会員の皆様にはご健勝でご活躍のことと、大慶に存じます。

さて“技術士だより”も発刊以来満1年を数えることができました。これも偏に皆様方のご支持ご支援の賜物と感謝いたす次第です。

何か何でもと張り切ったこの1年でしたが、本当に皆様方への情報提供という意味でのお役に立つことが出来たのだろうかと思案する日々でもありました。

先日ある会員の方に“技術士だより”を読んでいますかと問い合わせましたら「毎日多忙で始めバラバラ」との返事。ああ、詮方なし！ だが、どの業界誌もそうだろうと。

情報誌は雑誌と違って後で読み足すことが出来ない。その時期に是非貴方だけに知っておいて貰わなくてはならない記事だと思えます。発想を変え、視角を変えては如何でしょうか？

編集は今出来得る最良のものだと自信を持っているのですが、至らざる反面のあることも十分承知し乍ら、反省を重ねて前進しようと努力いたしております。会員皆様方のご批判、ご意見が少ないことに一抹の不安を感じますが、多くの方々より内容が非常に適切であるとお褒めと激励を戴いており、有難く思っております。今の私の胸中はよりよい明日を目指して、会員皆様への情報提供の“技術士だより”をおおらかに明るい気持ちで作らせて頂き、会員の皆様も是非最後のページまでおおらかに明るい気持ちで読んで頂き、共々大きく歩んでいきたいと願っています。

(次ページにつづく)

# 1人でも多くの人会をお勧め下さい

(前ページよりつづく) 会の発展、活性化に向かって、これからが正念場と考え、悔いなき“技術士だより”の編集に一同張り切っております。

会員の皆様も張り切って、技術士業務にご精励あらんことを祈念いたしまして、“技術士だより”発刊一周年のご挨拶といたします。

## 私の提言 「公共事業と労働時間短縮」

上野 篤秀 (建設部門)

Q: あなたは「賃金」と「余暇」とでは、どちらを多く望みますか?

A: 「余暇」の方です。

この対話は、ここ数年の我が社の面接試験において必ず試問している事項であります。

高度経済成長政策に端を発した経済の発展は、国民の生活水準や価値観の高度化・多様化を招来した。

従来の政策が産業活動基盤に視点がわかれていたのに対し、近年は国民の価値観の変化による生活環境基盤の充実を重視する施策に変わってきた。つまり“うるおいとゆとり”への志向である。

昭和63年4月に改正労働基準法が施行され平成3年4月より44時間(100人未満企業では46時間)労働時間制の義務付けられた。

私どものように地方の企業にあっては、建設コンサルタントのクライアントが殆ど官公庁である。官公庁となると、予算の執行が国家予算の成立に左右されており、公共事業に携わる我々業界にとって、こうした構図がゆとり社会実現の最大の問題点となっている。

これらの問題点が業務集中発注の解消であり、労働時間短縮への対応である。地方経済の基本は、何といたっても公共事業依存型であり、これに追随した経営施策をとらざるを得ないところに時間短縮導入の困難性がある。

既に本年4月度より官公庁が土曜隔週休に踏み切り、産業界も次々と時間短縮に取り組んでいる。

労働時間短縮は、今や労働力確保のために、

企業として最大の関心事であり、“うるおいとゆとり”ある作業環境の実現を目指し必須の課題となってきた。

近年労働者不足が大きな社会問題となっており、とりわけ土木建設事業関係に至っては「土木」ということばのイメージ低下、さらに「3K」…(きけん・きたない・きつい)…等が敬遠される大きな要因のようである。

労働時間短縮導入の遅れは、技術者不足に一層の拍車をかけ、今後の建設事業推進にも大きな影響をもたらすこととなるであろう。

こうした現実に対応していくためにも、改正労働基準法下の就労体制の整備を急ぐべきである。このため以下の施策を強力に推進していく必要がある。

### 1. 発注平準化の完全実施

発注の前倒し方式は、集中発注、圧縮消化の現象を生み“うるおいとゆとり”の就労体制に逆行するので、発注の平準化実現に努力することである。

### 2. 公共予算仕組みの法的改正

発注平準化のため、事業予算の法的整備・見直し(測量試験費、調査費等の予算分離・前年執行)を行うことである。

以上の施策については、以前より行政側へ陳情等により要望しているところであるが、今後においても時間短縮の阻害要因排除に努力し、我々業界も労働時間短縮の早期導入を目指すべきである。

# 日本技術士会近況

## 1. 第17回技術士全国大会

本年1990年は、来るべき21世紀へのかけ橋となる、10年間の最初の年であり、また、国内外とも激動の時代であります。この様なときにこそ科学技術、とりわけ独創的な科学技術が極めて重要であります。

最近、科学技術の高度化・複合化が進み、技術開発にあたっては、技術交流、技術移転の推進を図ることが不可欠となっています。この様な中で、豊かな知識と優れたコンサルタント能力を持つ技術士に対する、社会的需要が益々高まってきています。

第17回技術士全国大会は「科学技術こそ21世紀へのかけ橋」をメインテーマに、全国各地の技術士が一堂に会して、相互の技術の理解と研鑽を深めるとともに、技術士の資質を向上し、開催地域社会の発展に貢献することを目的としております。

特に、世紀規の偉業瀬戸大橋を渡り、四国高松にて当大会を開催することは、中四国在住の技術士を鼓舞すると共に、当地域産業界にも独創的科學技術の導入に対して多大のインパクトを与える効果が期待されます。

(1) 開催期日 平成2年10月19日(金)～  
平成2年10月23日(火)

(2) 会場 高松国際ホテル  
(高松市木太町219番地の1  
TEL (0878)31-1511 )

### (3) 主要行事

- 工場見学会
- 分科会
  - 第1分科会  
「21世紀の科学技術と技術士」
  - 第2分科会  
「瀬戸内新時代と技術士の役割」
  - 第3分科会  
「他日本技術士会に望むもの」

## 2. 平成2年度財交流協会関係の台湾派遣 専門家の募集について

本会は、昭和59年度から財交流協会と提携して、毎年、中華民国經濟部からの要請にもとづいて、台湾へ専門家派遣について、同会から専門家の推薦依頼がありました。派遣を

希望する会員は、下記の事項を留意の上、申し込んで下さい。

なお、財交流協会は、昭和47年9月日中国交正常化に伴って、我が国と中華民国との外交関係が終了しましたが、永年に亘って培われてきた経済文化交流等の実質的な関係が支障なく維持遂行されるように適切な措置を講ずることを目的として昭和47年12月、外務省と通産省の共管のもとに設立された公益法人です。

### <記>

#### (1) 派遣時期 期間および人員

第1次派遣	平成2年8月旬	2週間	約6名
第2次 "	" 9月旬	"	"
第3次 "	" 10月旬	"	約7名
第4次 "	" 11月旬	"	約6名
第5次 "	" 12月旬	"	"

ただし、財交流協会の予算の関係から変更されることがあります。

#### (2) 専門分野と人員

専門分野	人数
・トータル予防メンテナンス	2
・価値工学および価値分析VA/VE	1
・生産計画とコントロール (生産情報システム)	1
・機械業IE合理化(能率管理)	2
・無検査制度	2
・QCサークル活動	1
・外注品質管理	2
・企業経営方針管理	2
・製造過程システム設計における 品質保証	2
・全面的品質管理(TQC)	2
・資材管理	2
・JIT生産システム	2
・外注メーカー協力会の運営	2
・仕入コストの見積技術	2
・低コスト簡易自動化	2
(次ページにつづく)	

(前ページよりつづく)	
・ボカヨケおよび自動検測	2
・プラスチック金型の設計および製作(快速型がえを含む)	2
・大型パンチプレス類の金型設計と製作(快速型がえを含む)	2
・鋳造金型設計および製作(快速型がえを含む)	2

(3) 派遣費用等

航空賃、日当、宿泊費のほか、人件費が財交協から支給される。また、海外旅行障害保険が付保されます。また、人件費として月額70万円を限度として補てんされます。

(4) 申込手続

専門家派遣を希望される方は、はがきに住所、氏名および

①希望派遣月(出来れば  
順位をつけて複数月)

②専門分野(2つまで)

を明記のうえ、社日本技術士会業務部宛申し込みのこと。ただし、8月の派遣を希望される方は、平成2年7月14日(土)までに、また9月については8月13日(月)までに必着するよう申し込みのこと。また、その他の月については8月末日までに必着するよう申し込みのこと。

また、派遣を希望する方で未提出の方は別途海外業務促進委員会所定の業歴書を提出して下さい。業歴書の用紙は返信用封筒に62円切手を貼付のうえ、本会宛請求下されば送付します。

(5) 希望者の選考等

希望者の選考については海外業務促進委員会の選考委員会が行います。推薦が決定した方には、直接本人に連絡します。

(6) 応募条件

- ① 年齢70歳以下の会員
- ② 人件費の補てんは、前年度の所得実績にもとづきますので相当額の所得があることが望ましい。

3. 生物工学部会発足について

平成2年6月9日生物工学部会が正式に発足いたしましたので報告いたします。  
なお、部会長は伊東祐四氏です。

4. 第20回日韓技術士会議の開催について  
事業委員会

○開催日：平成2年10月30日(火)

○開催場所：麻布グリーン会館

○テーマ：

①日韓産業構造調査報告

②望ましい技術士制度

(会議の方式は

パネルディスカッション方式)

○参加予定人員 日本側 50名  
韓国側 20名

○参加費：4,000円  
(懇親会費は6,000円)

5. 社日本技術士会組織の改編(支部組織化)に関するアンケート調査結果について  
政策委員会

平成元年6月実施した標記アンケート調査結果を取纏め、分析したので報告する。  
記

(I) 全体の傾向

支部組織化に賛成の意見は74%と大多数である。因みに反対は16%である。

(II.2) 支部の在り方

「(イ)都道府県単位の支部とする。」という意見が多数で74%を占めているが、集約可能な会員数400名以下とし「(ロ)適当な地域に区分するとする。」も無視できない。これに「(ハ)集約可能な会員数は300名以上は多すぎるので支部の数を増やす。」という意見を加えると50%を越える。

(次ページに続く)

(つづき)

(II.3) 支部還付金の在り方

「(ロ)総額を現在の還付金の範囲で平等に配分するとする。」と「(ハ)新設の支部には既設の支部より還付金を定額に押さえるとする。」の意見が37%で、「(ニ)支部会費を別途徴収するか会費を据え置く。」の意見が13%、「(ホ)会費を減額する。」意見が13%を占めた。

(II.4) 支部編成に反対

「(イ)関東支部の組織化は日本技術士会の活性化につながらない。」とする意見が反対意見の約45%を占めるが、全体の中の反対は16%と少数である。

(2) 支部別の偏り

(II.2) 支部組織化の方法について、未所属会員の意見は関東支部一括の意見もあるが、全体としては県別支部の組織化をという傾向の意見が多い。

(II.3) 支部還付金の在り方については、各支部とも同様な傾向の意見であるが、東北支部には「(イ)新設支部に対しては還付金を支給しない。」とする意見が33%ある。

(II.4) 支部編成に反対については、中部支部会員の意見は「(イ)関東を中心とする地域に支部を組織しても技術士組織の活性化になるとは考えられない。」とする反対理由が33%を占めている。

(3) 部門別の偏り

(II.2) 支部の在り方については殆ど偏りはない。

(II.3) 支部還付金の在り方については水道部門の意見に「(イ)各府県別支部の組織を望む。」意見が多く(39%)、「支部会費を別途徴収する。」といふ(ニ)、(ホ)に賛成する意見は少ないという偏りがみられる。

(II.4) 支部編成に反対については殆ど偏りはない。

(4) 業務形態別の偏り

特に大きな傾向は読み取れない。強いてあげれば専門技術士は「(ホ)関東一括支部の設立」を望む傾向が大きい。

(5) 年齢別の方より

(II.2) 支部の在り方と(II.3) 支部還付金の在り方は同じデータである。(II.4) 支部編成に反対の傾向は変わらない。

6. 平成2年度技術士第一次試験  
受験申込者数について

受験地	申込者数	前年度数
札幌	163	150
東京	1,225	1,259
大阪	993	1,236
福岡	382	315
名古屋	323	—
仙台	226	203
那覇	56	57
新潟	153	—
合計	3,521	3,220

7. ㈱日本技術士会会員数

4,610名(5月末現在)

内訳

会員 3,804名  
準会員A 103名  
準会員B 703名

他に 賛助会員 166社

(㈱日本技術士会近況 おわり)

技術士会九州支部・九州地方技術士センター  
行事・会合などの報告

1. (株)日本技術士会九州支部主催  
第3回九州地方公共団体職員と  
技術士との合同セミナー開催について

- (1) 開催日  
平成2年11月13日(火)
- (2) 開催場所  
ホテルメリディアン  
(宮崎市橘通東3丁目1-11)  
TEL (0985) 26-6666
- (3) 参加者  
九州地方公共団体職員と  
技術士及び一般希望者
- (4) 内容  
○セミナー  
テーマI「地域の活性化と  
産業基盤の整備」
  - ① 宮崎県の社会基盤整備の方向  
…… 宮崎県 土木部次長  
越山 達夫
  - ② テクノポリスの現状と課題  
…… 宮崎県テクノポリス  
対策主幹 黒岩 正博
  - ③ 宮崎日南海岸リゾート構想の現状と  
課題 …… 宮崎県リゾート・シルバー  
振興拠点推進課長 安藤 忠恕
  - ④ 「新ひむかづくり運動」の一視点  
…… 宮崎県 漁港課長  
田水 達之
  - ⑤ コンベンションシティ宮崎の将来像  
…… 宮崎市 都市整備部長  
曾小川 久貴
  - ⑥ 21世紀のまちづくり「宮崎学園都市」  
…… 地域整備公団宮崎学園都市  
開発事務所 所長  
岡山 義人

テーマII「中小企業を中心とする地域  
産業の活性化対策とその事例」

- ① 宮崎県における異業種交流と産業技  
術融合化の現状 ……  
宮崎県産業技術情報センター常務理事  
異業種交流カタライザー 井出 奎三
- ② ユニークな町づくりに果たした企業  
の役割 …… 宮崎県技術アドバイザー  
技術士 山下 實

③ 技術士と国際化の波  
…… 技術士 朝日 輝

<まとめ>

地域の活性化に必要な技術行政と  
技術士の役割 ……

九州支部 副支部長 原井 束男

○懇親パーティ

○見学会 平成2年11月14日(水)

○懇親ゴルフコンペ  
平成2年11月14日(水)

(5) 主催 (株)日本技術士会 九州支部  
後援 宮崎県、宮崎市  
土木学会西部支部  
開催担当 宮崎県技術士会

(6) 準備委員  
・大会委員長 …… 九州支部長  
・実行委員長 …… 宮崎県技術士会  
会長  
・同副委員長 …… 同 副会長  
・実行委員 …… 同 幹事(その他)  
・顧問 …… 九州支部副支部長  
同 事業委員長  
宮崎県技術士会顧問

2. (株)日本技術士会第32回定時総会(平成2  
年5月30日)において、平成2年度の会長  
表彰者として九州支部より、鹿児島地区・建  
設部門の岩下秀雄氏が表彰されました。

3. 平成2年度第1回支部・センター合同役  
員会を(出席役員28名)6月30日(土)福  
岡商工会議所において開催。定時総会におい  
て承認いただきました平成2年度事業計画に  
基づき、各地区提出の事業計画(案)並びに  
役員及び常設委員会委員の会合出席のための  
旅費規定(案)も併せて審議、決定承認され  
ましたので以下報告いたします。

(次ページにつづく)

(1) 平成2年度地区事業計画

1) 福岡地区(代表幹事 安武 敏也)

・技術講演会

期日 平成2年9月29日(土)午後

演題(仮定) 廃棄物の現況と将来展望  
及び東南アジアの問題点等

講師 福岡大学 工学部教授

花島 正 孝

(趣旨)

花島教授は、日本における最初のごみ  
博士(昭和63年廃棄物で博士号)

日本及び海外の事情に明るいので、

1時間半ないし2時間程度の専門講演  
をお願いする。

2) 北九州地区(代表幹事 山元 利治)

①地区会員月例会開催 毎月第3土曜  
日(14:00~17:00)。(他地区からの  
参加も歓迎。戸畑駅前中央公民館)

②北九州商工会議所平成2年度特別窓  
口技術相談に、地区会員専門相談員  
となり、毎月第3・第4月曜の午後、  
技術問題の解決方法、新製品の開発  
及び製造工程の合理化等、地域の技  
術振興に助成。

③技術交流講演会を開催(日時未定)

④国際協力事業団九州国際センターの  
研修機関構成員に積極的に参加。

3) 佐賀地区(代表幹事 向井 治孝)

7月下旬 佐賀県内技術士懇談会

及び各官庁、各関係機関へPR

3月 新規合格者の祝賀会

4) 熊本地区(代表幹事 青山 次則)

①熊本県技術士会員懇談会の開催。

(6月15日、12月開催予定)

②九州経済圏域づくりと高速交通体系  
基盤(国際空港)の整備  
(熊本技術センター)

③シンポジウムの開催

(10月頃-水と環境のテーマ)

④県内技術抄録の編纂について

5) 大分地区(代表幹事 原井 東男)

①PRと会員増強を兼ねて、異業種交  
流研究会、技術研修研修会、座学交  
流会議等へ積極的に参加する。

③活性化事業として、会員並びに一般  
企業の参加を求め講演会を開催。

(時期・演題は検討中)

④平成3年度開催が予定されている地  
方公共団体との合同セミナーの準備  
体制を整える。

7) 宮崎地区(代表幹事 新城 精一)

平成2年5月8日 宮崎県技術士会

役員会・総会

同 11月13日 第3回九州地方公共団

体職員と技術士との合同セミナー

同 11月18日 土木学会主催「土木の

日」事業に協力

同 12月 懇親ゴルフコンペ、忘年会

8) 鹿児島地区(代表幹事 上野 光夫)

①九州支部の事業活動に協力、各種委  
員会活動に参加する。

②技術士試験の受験対策に協力する。

③名簿を作成、関係各方面に配布、  
PRする。

④昨年行った合同セミナーの講演集を  
プリント、関係各界及び会員に配布  
する。

⑤種子島宇宙センターの見学研修と  
講演会開催。

(2) ㈱日本技術士会九州支部ならびに

九州地方技術士センター 旅費規定

平成2年7月1日制定

この規定は、㈱日本技術士会九州支部  
ならびに九州地方技術士センター役員お  
よび常設委員会委員が、役員会ならびに  
委員会に出席したとき、支給される旅費  
を次のとおり定める。

期 限	役員及び委員
交通費 幹線鉄道	普通乗車券+特急券の往 復運賃とし、その3割を支 給する。 ただし、地区により、支 給旅費が2,000円以下の場 合は2,000円とする。

(次ページにつづく)

(3) 平成2年度 地区事業費

地区	会員数	事業費	地区	会員数	事業費
福岡	216名	100,000 (円)	大分	32名	50,000 (円)
北九州	55	65,000	宮崎	23	50,000
佐賀	21	50,000	鹿児島	42	65,000
長崎	34	50,000			
熊本	45	65,000	計	463名	495,000 (円)

## 支部・センター委員会だより

### ◇ 郷糸総務委員会(水上委員長)

#### 1. 第2回総務委員会

日時：平成2年7月24日(火)13:00~16:00

場所：博多駅東2-1-27 博多第一ホテル

議題：

- (1) 「技術士だより」のアンケート調査について
- (2) 「技術士だより」夏季号(第5号)の編集について

#### 2. 第3回総務委員会

開催予定日：平成2年9月22日(土)

議題：会員増強推進について

### ◇ 郷 試馬会委員会(政野委員長)

平成2年度の技術士試験の日程は、次のとおり決定した。

#### (1) 平成2年度技術士第2次試験

日時：平成2年8月22日(水)

8月23日(木)

場所：九州大学工学部

申込者数： 1,274名

内訳 建設 824名  
建設以外 450名

#### (2) 平成2年度技術士第1次試験

日時：平成2年10月14日(日)

場所：東和大学

福岡市南区筑紫丘1-1-1

申込者数： 382名

#### (3) 試験委員会の現況と問題点

平成2年度事業計画に基づき、技術士試験の実施を積極的に支援するため、現在試験監督員の人選中である。

委員会は7名で編成されていたが、西満幸氏の転出により現在6名である。

#### ①試験場の確保が困難である。

平成2年度は、受験者の伸び率が次表のとおりである。

受験者伸び率(福岡会場)

年度	申込者	伸び率	備考
S.63	989	1.0	S.63を1とする。
H.元	1,165	1.18	
H.2	1,274	1.29	

#### ②試験監督員の確保が困難である。

受験申込者の伸びに応じて、試験室が増え監督員の増員が必要となってきた。候補者は各社の経営幹部、もしくは事業部の幹部であり、且つ福岡市内で試験が実施されるので人選の範囲が制約され、日程調整が困難である。必要人員は延べ26名である。



(支部・センター委員会だより-つづき)

◇**郷土事業委員会**(笠木委員長)

- (1) 技術士業務の開発・普及および啓発活動について企画・立案に関すること
  - ・関係各省庁ならびに九州各県の関係機関に技術士制度のPRを行う。
  - ・諸官庁に対し会員名簿の配布。
  - ・産官学の公的行事の積極的参加。
  - ・企業診断の技術士活用。
  - ・センター活性化委員会との共同活動。
- (2) 本部より委嘱された事業およびこれに準ずるものに関すること
  - ・委嘱事業の推進。
- (3) 会員の実務研修・資質の向上に関すること
  - ・第3回九州地方公共団体職員との合同セミナー11月開催(前掲)
  - ・技術啓蒙活動の推進。
  - ・センター研修委員会との共同活動。
  - ・講演会開催。年間1~2回、日時未定。

◇**センター受馬対策委員会**  
(町田委員長)

- 技術士第2次試験直前対策講座  
日時：平成2年7月28日(土)10:30~17:00  
場所：福岡商工会議所604号B1号  
受講者：55名 講師：28名  
受講内容：  
(1) これから1ヶ月間の研修方法  
(2) 必須科目問題主要テーマの予想と解答の方向  
(3) 経験論文の仕上げ個人指導

- 技術士口頭試験対策講座  
日時：平成2年11月17日(土)10:00~17:00  
場所：福岡商工会議所604号、605号

◇**センター石井冬委員会**(矢野委員長)

- 平成3年2月23日(土)
- ① 平成2年度技術士補試験新合格者に対し、今後技術士試験合格のための研修会を開催する。
  - ② 平成2年度技術士試験合格者に対し、“技術士としての歩み方”等についてベテラン技術士による講習会を実施する。
  - ③ 既会員に対しては、平成元年度に引き続き、別府で開催された九州管内技術士の手になる研究発表項目、専門技術関係のアンケート第5位~第8位題目について詳細発表を実施、さらに特別講演1件を併せて行う予定。
  - ④ なお、研修会終了後、総務委員会・受験対策委員会と共催で、新合格者に対する祝賀会を実施する。

◇**センター活性化委員会**  
(江崎委員長)

- (1) 技術士の活性化に関すること。
- (2) 官公庁始め関連諸機関への訪問PR。  
(会員名簿、技術研究発表特集携行配布)
- (3) 支部・センター主催、官公庁その他協賛による産学官融合“九州地方技術研究シンポジウム”の開催、企画調査。(総務委員会事業委員会、活性化委員会、研修委員会と合同)
- (4) 海外技術交流に関すること。

(支部・センター委員会だより-おわり)

❀ **声の広場** 地区活性化だより - 4 - 熊本地区

熊本地区代表幹事 青山 次則

1. 平成2年の熊本県技術士会の主な行事を列挙いたしますと次のとおりである。

- (1) 3月3日 “水”シンポジウム“みんなで考えよう人間と水とのかかわり”その2「ウォーターフロントとまちづくり」のテーマで、行政のみでなく市民参加の水辺空間の対策を討議した。

2. (2) 3月10日 技術士第2次試験申込書配布説明会開催す。

受験申込者35名参加。申込み手続きを説明。宮崎登喜春技術士(昨年合格者)の受験に対する心構えについて体験談を聞き、説明会を終わる。

(次ページにつづく)

(声の広場つづき)

(3)5月14日 くまもと科学・技術振興クラブ主催の「国際交流会議」に技術士会より参加支援した。(社)日本技術士会熊本技術センターは、くまもと科学・技術振興クラブの正会員である。

(4)6月15日 熊本県技術士会定例総会開催。26名参加。来賓として土居支部長来熊、地区技術士の活性化についてあいさつを頂き、会員増強について参加会員のご賛同と協力をお願いした。

2. 平成2年の主な行事予定は以下のとおりである。

(1)10月初旬 “水と環境” についてのシンポジウム開催の予定。日時、場所等については検討中である。九州支部会員のご支援をお願いしたいと思っている。

(2)11月下旬 熊本県技術士会開催による講演会を開催する予定。

3. 会員の現況は次のとおりです。

部 門	支 部 会 員		セ ン タ ー 会 員		技 術 士 有 資 格 者
	正 会 員	準 会 員	正 会 員	準 会 員	
電 気 ・ 電 子	1		1		
機 械		1		1	
建 設	4	1	12	11	6
水 道	2		4		2
衛 生 工 学	1				
農 業	3		3	2	11
林 業	2		1		4
経 営 工 学	1				2
応 用 理 学	4		1	1	5
計	18	2	22	15	30

県内に技術士の有資格者が30人活躍しているので、入会のお願いをしてゆく方針である。

4. 本県には(社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センターが63年9月発足。産・学・行政の結節点となり、社会資本整備のための問題点を調査研究し、地域産業・経済活動の共通の基盤づくりのため提言・提案を進め、地区技術士の活性化に向けて事業を進めてゆきます。

(「声の広場」おわり)



# 会員ニュース



★他日本技術士会会員・福岡地区  
水道部門 磯崎龍哉先生が平成2年  
4月21日逝去致しました。  
★九州地方技術士センター会員・熊本  
地区 建設部門 米川信之先生が  
平成2年4月23日逝去致しました。

謹んでおふたかたのご冥福をお祈り  
いたします。

## ☆他日本技術士会(九州支部)入会

(区分)	(地区)	(氏名)	(樹欄)
入会	熊本	河田 嗣雄	建設
"	"	高須賀俊一	農業
"	"	池内 巖	林業
"	佐賀(轄)	佐藤 泰徳	機械
"	長崎(轄)	中山 英樹	水産
"	宮崎(轄)	明瀬 一行	建設
"	北九州	右田 恭治	金属
"	"	永澤 逸郎	経営工学
"	熊本	佐藤 康敏	農業
"	福岡	中島 康博	林業
"	"	増永 秀人	電気・電子
"	鹿児島	新屋敷和明	建設
"	北九州	江畑 賢一	応用理学
"	"	浦島 親行	金属
"	宮崎	堀江 皓一	林業
"	佐賀	成内 律男	応用理学
"	福岡	内田 勝己	建設
"	"	黒川 邦夫	"
"	"(轄)	塩屋 藤彦	応用理学
"	北九州(轄)	武田 一生	機械

## ☆他日本技術士会(九州支部)転入出・退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(樹欄)
転入	福岡	内藤 堅一	建設
"	"	益原 寛文	水産
"	"	太田 能文	経営工学
"	北九州	大塚善三郎	電気・電子
転出	北九州(轄)	森山 俊	船舶
退会	熊本(轄)	桑畑 俊郎	農業

## ☆九州地方技術士センター入・退会(

(区分)	(地区)	(氏名)	(樹欄)
入会	北九州	頼 松岡 宏昭	建設
"	福岡	正頼 横山 悟	"
"	北九州	" 永澤 逸郎	経営工学
"	長崎	" 川村 昭宣	建設
"	"	" 松村 昇	機械
"	大分	" 佐藤 幸甫	建設
"	宮崎	" 山下 實	農業
"	福岡	" 増永 秀人	電気・電子

転出	鹿児島	正頼 百元 和夫	農業
退会	北九州	頼 岩釣 敬一	建設
"	"	" 服巻 博史	機械
"	"	" 井上 俊雄	電気・電子

-以上、平成2年4月1日~6月30日  
受付順、敬称略-

## ことば / 用語 ミニ角平言兌 ファジー理論

これまでの科学は、はっきりとしない情報を極力排除し、数式化できる明確なものだけを相手にしてきた。たとえば、現在のデジタル・コンピューターはイエスカノーカ、つまり1と0で表現できるものに限定して情報を処理し、その中間は認めなかった。(中略)

従来のやり方では表現できない人間の認識のもつ“あいまいさ”を、とらえられるようにしようというのが実はファジー理論の狙いだ。さらに、こうした“あいまいさ”の認識手法を技術の分野に積極的に取り入れ、複雑な機械の制御や、より快適なシステムづくりに役立てようというのが応用編だ。

ファジー(fuzzy)は、鳥のうぶ毛を表す「fuzzi」から出た言葉で、ふわっとしたとか、境界のはっきりしないものを示す言葉で、1965年に米国・カリフォルニア第のL・A・ザデー教授がその理論を提唱した。研究、応用面では、合理主義的な欧米より、あいまいさや矛盾が無理なく受け入れられやすい日本や中国が先行している。

(朝日新聞・1990年7月23日(月)より)

✍ データ / で ー た 📖

市場規模を新製品開発の上で最重視

企業の経営は、トップマネジメント、組織、設備、製品、市場、資金などが重要になります。これらの要因を定性的分析した上で、定性化をはかり企業経営の中での重要性をつかもうとしたのが、通商産業省の「総合経営力指標」です。その中で新製品開発上の留意点として何を最も重視しているかを調べたものを見ると、「市場規模」「粗利益率見込み」などがあげられている。(JMAジャーナル May1990)

新製品開発上の留意点(最重視)

市場規模	304 (51.5%)
粗利益率見込み	102 (17.3)
現製品への影響	25 (4.2)
量産化技術力の有無	19 (3.2)
既存人材活用の可能性	10 (1.7)
資金リスクの許容限度	11 (1.9)
企業体質への適合性	81 (13.7)
同業他社の進出動向	27 (4.6)
基本特許との関係	4 (0.7)
その他	7 (1.2)
合計	590 (100.0)

◆平成2年度の技術士報酬の取扱いについて  
— 本部からの連絡事項(追加) —

(前略) 標記につきましてはさる7月12日開催の理事会にて事務局からご連絡いたしましたとおり、本年は建設コンサルタンツ協会の数字の取りまとめが遅れました関係で大変遅くなりましたが去る7月17日に入手し、翌18日に委員会を開催し、かきのとおり、本年度の試算(案)を作成しました。

記

1. 日ぎめ方式の場合の1日当りの報酬額  
123,600円(税込み)
2. 定額積算方式の場合1日当り直接人件費  
技術士 59,000円以上  
技術士補 27,000円以上

出所「総合経営力指標」通商産業省(S.63.8)

★投稿を募る★

技術士の主張・賛助会員(会社)の紹介など、技術的または一般的なお意見について、皆さんの投稿を募ります。

(1編400~600程度、事務局宛)

◇編集後言己 📖 ✍

★謹んでご冥福をお祈りいたします。

益田 憲吉氏(西日本新聞社解説委員長)は去る7月22日、心不全のため、68歳で死去されました。昨年11月の九州支部・センターの25周年記念大会・記念講演での、あの独特の語り口が、今も脳裏に焼きついています。

夏枯れというわけではありませんが、原稿が少ない時期には、それなりに苦勞があります。”どろくささ”から少しでも脱皮して、皆様に愛される“技術士だより”にと、同封のアンケートをお願いしました。はがきが、100%戻ってくることを祈っております(小)

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆6月号

- ・私の技術士業務  
古い技術士の新事務所 / 神力 達夫
- ・研修のページ  
飲む立場からのワイン / 上野 雄晴
- ・宇宙原辞学 / 伊桜 市左衛門

☆7月号

- ・私の技術士業務  
中小企業の異業種交流 / 宮島 信夫
- ・研修のページ  
新原理航空技術の顛末 / 矢部 五郎
- ・製造業の構造変化 / 高橋 駒雄

発行・(株)日本技術士会九州支部  
九州地方技術士センター  
〒810 福岡市中央区大目1丁目12-61 郵便番号402  
☎(092)771-9534 編集・総務委員会